

Do!

2023.AUTUMN

11月号

VOL.482

DOKKYO
UNIVERSITY

60th
Anniversary
since 1964

DOKKYO UNIVERSITY NEWS



02_03_新理事長就任挨拶

04_05_学友会座談会

06_創造祭特集

07_インタビュー_未来への羅針盤

08_学生記者が行く

伝統ある獨協の新たな魅力づくりと発信を皆さんとともに

獨協学園理事長
猪口雄二

獨協高等学校から獨協医科大学の第一期生、生粋の「獨協人」である猪口雄二第15代獨協学園理事長。理事長就任に際し、「獨協に対する愛情は誰にも負けない。学園をより良くして、学生、保護者、卒業生及び教職員の笑顔と幸せのために尽くしたい」と決意を述べられたそうです。猪口先生にお話を伺いました。



猪口雄二(いのち・ゆうじ)
1955年東京都生まれ。79年獨協医科大学卒業後、同大学病院リハビリテーション科臨床研修医、81年臨床助手、84年助手。86年医療法人財団寿康会寿康会病院副院長、87年～同病院長・理事長。2017年～全日本病院協会会長、2020年～日本医師会副会長。獨協学園では、2003年～18年評議員、2018年～理事、2023年8月～理事長。

学生時代について

私が通っていた頃の獨協高校は、生徒は人が好くてギスギスしていない、スポーツに長けている人、音楽に長けている人など本当に多彩な人が多く、伸び伸びとした雰囲気な学校でした。先生方は厳しいところは厳しいし、50年以上前の話で時代だからということもあり、悪さをするとヒンタが飛んできました。今だと問題になりますよね。いつも厳しい体育の先生が、実はとても優しい心持ちの温かい先生で、スキー教室など一緒にやって本当に良く面倒を見ていただきました。思い出深い先生が多くて、恩師を一人に特定するのは難しいのですが、厳しくもあり温かくもある先生が印象に残っています。

高校卒業後、開学された獨協医科大学に運よく1期生として入学しました。当時、大学の完成した建物はありましたが、1学年100人少し程度の学生、基礎の先生と事務の方しかなくて、皆知り合いという感じ

でした。何もなかったのでクラブも自分たちで作りました。音楽が好きでしたので軽音楽部を作って、スポーツは友人が有段者だったことから少林寺拳法部にも参加しました。文化祭も自分たちで始めました。

50年前の医学部で覚えなければならぬ物ごとの量は今と全然違って、医学が進歩して内容も変わり覚えなければならぬことも多くなりました。国家試験の内容も変わり、今の学生さんは大変だと思えます。その後、越谷に病院が出来て、今年日光の新築移転も行って、獨協医科大学は本当に発展しました。

最近訪問した他の獨協の学校も、それぞれ特徴があると思います。獨協埼玉中学高等学校は広い校地で伸び伸びと運動もできて、とても素晴らしい充実した環境だと感じました。獨協中学・高等学校は、校舎が建て替わり立派な体育館も整備されましたし、向かいが椿山荘、隣りがカテドラル教会という素晴らしい地の利を、ますます活かしているように感じました。

そう多くは受入れられませんが、集団で病院に来られたときに、病院の外に椅子を並べて診たこともありました。その時には、病院団体としての活動もしなければならず、コロナ対応について国との交渉事なども多くありました。

余暇の過ごし方

なかなか自由な時間を取ることはできないのですが、時間があれば音楽を聴いたりギターを演奏したりして過ごしています。バンドメンバーの6名のうち3人は大学からの仲間です。一時期仕事が忙しくて離れていた人も、30周年ライブを日比谷野音でやるからと呼び戻して再開し、遠くに住む人もいるのでメンバーを代えながら、今も年に2回のライブを目標に続けています。

学生時代はちょうど学園紛争の終わった頃で、1980年代のあまりハードではないアメリカン・ロック、イギリス、エリック・クラプトン、ウッドストックなどに感銘を受け感化され、その後多くの音楽を聴くようになり、1950、60年代のR&Bが好きで、モータウン・レーベルのミュージシャン、ダイアナ・ロスなどが若い頃作っていた音楽は、今でも聴く度に心に響きます。自分で演奏して似たような音は出せても、リズムまで全く同じという演奏はできません。彼らだから出来る表現なのでしょうね。

医者になってから長い休みを取ったことがないので、落ち着いたら語学を勉強し直して海外に行きたいと思っています。長期休

くと思います。姫路獨協大学は、土地の広さ、建物、世界文化遺産・国宝姫路城を臨む立地が良いと思いました。各学校とも十分に魅力が備わっているのが、皆で努力してもっと発展していけたらと思います。

医師として

獨協医科大学で我が国初のリハビリテーション医学の講座が誕生し、すごく夢があると思って入局しました。病気で身体を自由を失った人が、機能訓練で良くなったたり、100%戻ると言うことではなく麻痺が残ったりする人もいて、いわゆる身体障害といわれる人はとても多いのですが、どうやって生活して、どうやって仕事が出来るとなるのかそういった工夫が色々できるところが、リハビリテーションの魅力でした。学生当時の日本にはリハビリテーションは定着していませんでしたが、絶対必要になると思い専攻しました。

1歳違いの兄も医者なのですが、下町に暇には本当に縁がなくて、今はやらなくてはならないことが山積みなので、本当に休めないと思います。映画もゆっくり観たいけれども、映画館に行くとなんか潰れてしまうので、なかなか難しいですね。

学生の皆さんへ

長期の休みのあるときには、自分が好きなことを集中してやって欲しいと思います。自分の決めた仕事があっても、もちろん仕事もしっかりやるけれども、人と広く付き合せて、価値観や多様性が身につけているというのが良いと思います。研究一筋でやってきた人も素晴らしいと思いますが、ダイバーシティの感覚がこれからの人には必要だと思います。

今年、獨協学園、獨協中学・高等学校が140周年、獨協医科大学が50周年、来年は獨協大学が60周年を迎えます。その歴史を大切にして、基本的に人間教育という学園全体で共通する理念を持っています。今後、少子化が進むなか、ますます魅力ある学校にして、その魅力を発信していかなければなりません。基本理念である「学問を通じての人間形成」をどのように具現化するかですが、それは時代とともに変化していく部分があり、高度成長期と現在の少子・超高齢化社会の中では、学問の目指すべきものも変わってきていると思います。皆さまからご協力いただきながら、獨協の色を、具体的な教育などの形に落とし込んでいきたいと考えています。



在学時の獨協中学・高等学校

開設時の獨協医科大学

獨協埼玉中学高等学校

獨協中学・高等学校

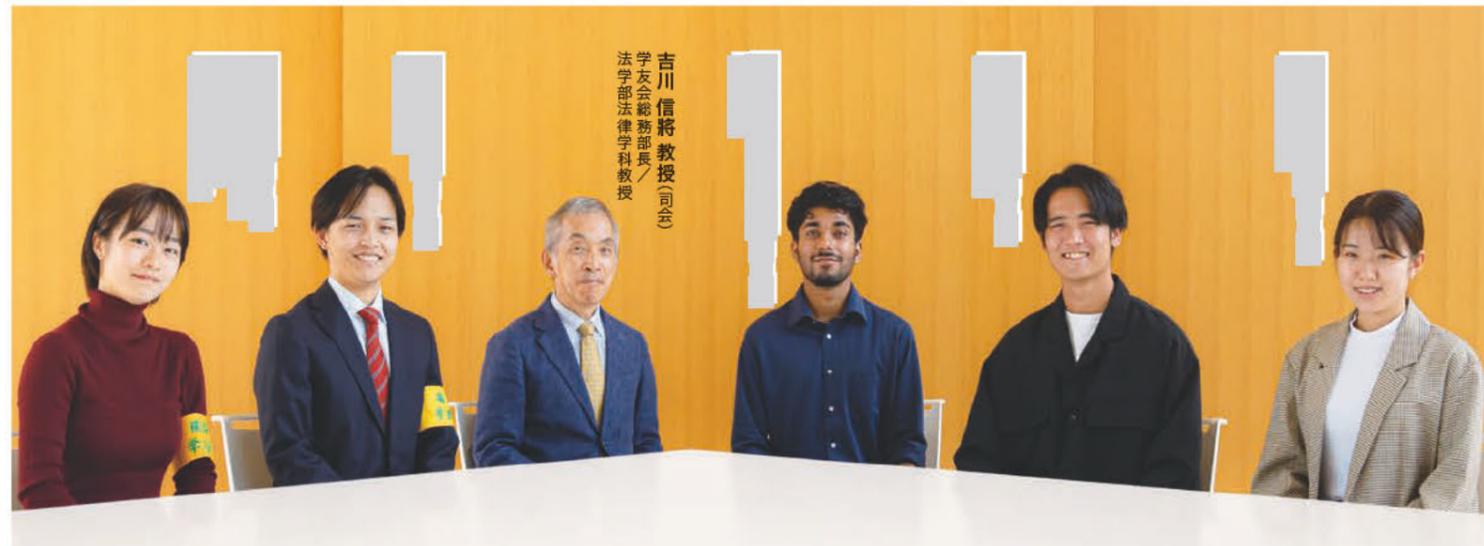
姫路獨協大学

獨協医科大学

学友会座談会 大学活用の道標

獨協大学の課外活動を支える学友会。
 学生生活を彩るその活動について、今回は学友会、体育会、文化会、愛好会の本部、及び各部に所属する学生であり、自らも役員としてメンバーをまとめる5人の方にお話を伺いました。

全ての学生は学友会会員であり、会長(学長)の下に学生代表である委員長が全学生の参加による選挙で選出される。
 本部は所属団体の統括を行っている。



吉川 信将 教授(司会)
 学友会総務部長/
 法学部法律学科教授

吉川 学友会の委員会活動や部活動に取り組んでいる皆さんにそれぞれの活動の実態や想いを伺っていききたいと思います。皆さん体育会、文化会、愛好会の団体間や、それらの所属を超えたところでの交流はありますか？

体育会では全体で体育祭がありますね。春は1年生だけ、冬は全員参加で年2回。団体同士の交流の機会になっているようで、特に1年生は親しくなるきっかけになっていると聞きます。

それはいいですね。文化会だとなかなか全体ではできなくて。ただ、美術部、文芸部、写真部、漫画研究会では雄飛祭の時に合同で雑誌をつくっていて、それぞれの部で分配して販売しています。交流の機会としてはそういう場が大きいかな。

放送研究会はナレーションをしたり映像をつくったりして、いろいろな団体と関わっています。公式のLINEアカウントで広報媒体の制作依頼も受け付けているので。撮影や取材で実際に団体の活動が見られるのは楽しいです。古典ギター部でも、マンドリンクラブと一緒に演奏会を開催しており、交流の機会になっています。

広報ですか、それいいですね。実は以前からちょっと思っていることがあって：文化会は予算の都合でなかなかイベントも



きず宣伝の機会が少ないのですが、活動を知ってもらうためにもほかの団体のイベントに協力できないでしょうか。美術部ならイラスト、写真部なら写真、文芸部ならキャッチコピーで、ポスター作りとかできると思います。

そうですね、確かに学友会のイベントもポスターは内部で作りましたが、美術部とコラボして作れたらいいのができそうです。



文化会
 は固くて真面目に思われがちですが、実はやろうと思えば何でもできる団体なんです。部室も機材もそろっているし、でも自由な分メンバーによって空気が違って、コンクールを目指したり広報映像をつくったり：それを楽しめるのも良さだと思います。

自由さで言えば愛好会は本当にそれぞれですね。軽音楽系の団体は、定期演奏会としてお互いに披露しあったりもしています。部内で交流を深めることに重きを置いているところも多いです。その一環として雄飛祭や定期演奏会を目標にみんなで頑張っている姿をよく見かけます。

団体単位の交流で言うと、実は体育会は閉鎖的な気がしますがね。高い目標に向けて頑張っている分、所属の団体以外に目が行きにくいというか。体育祭でも体育会の中でだけですし、先ほど話されていた放送研究会の広報活動も知りませんでした。もったいなかったかも自己紹介で話せることがたくさんあります。それに、所属団体は自分の居場所にもなります。大学は広くて授業も多いけれど、授業だけならほかの大学でも受けられる。学友会や団体は獨協大学にしかありませんし、その仲間はここにしかいません。そういう居場所を作っておくと自分が大学の一員だと実感できるし、大学が楽しくなりますよ。

今、学友会活動に参加していない学生と、これから入ってくる新入生たちがいます。本部として、多くの学生に参加してもらって、学友会活動を、ひいては大学全体を盛り上げたい。学生生活を楽しむための一歩として学友会活動に参加してほしいと思います。団体の選び方も自由で、仲間を作って活動すること自体を目的にしてもいい。活動に参加しながら迷ったっていいし、モデルさんや尾竹さんのように、いろいろな団体を経験することもできます。それぞれの方法で学友会活動を存分に楽しんでほしいですね。



※本文内敬称略

たなあと：学友会本部には、そういう活動の周知も、できればお願いします(笑)。

はい、頑張ります(笑)。皆さんの場合は目標が大会や雄飛祭だったりすると思うんですが、我々は学内を盛り上げるのが目標ですからね。コロナ禍もようやく明けてイベントなどができそうですし、地域に開かれた大学を目指す獨協大学としても、各団体と協力して一緒に頑張っていけるといいですね。

吉川 ここ数年は団体活動もコロナ禍で窮屈だったでしょうね。獨協大学の持ち味である留学などもかなり制限を受けていました。数年前なら各団体でも国際色が強い獨協大学ならではの風景が見られたかと思うのですが、今はどうでしょうか？

今も国際色はありますよ、僕が美術部の部長をしているくらいですから(笑)。他の部でもメンバーに外国人がいてもおかしくないと思います。

そうですね。留學生歓迎会の時、古典ギター部で演奏したんですが、その演奏を見て一緒に何か演奏できないかと言ってくれた留學生もいました。バイオリンを演奏される方が、まだ実現はしていませんが連絡を取り合っています。

愛好会で中国語を広めたいという留學生もいました。それも実現には至りません



でしたが、留學生でもそうした挑戦がしやすいのは獨協大学の特徴かもしれません。

実際の入部者に関しては、体育会の各団体競技は大会での勝利を目指すのが前提ですので、未経験者で1年の留学期間だけ参加したいといった話になると、なかなか指導する余裕も取れなくて：もちろん部によっては参加者もいるとは思いますがね。

各部次第ですよ。うちの場合ドイツ人留學生と一緒に活動して作品を描き上げて、ちょうど展示会があったので出張して帰国しました。

各団体の状況を把握はできていませんが、愛好会は比較的参加しやすいかと思いますが、愛好会は比較的自由です。気軽に聞いてみてもいいかもしれませんね。言葉の壁も低いですし、入りやすい環境だと思います。留學生も積極的に参加してみたいですね。

最後に、皆さんから新入生や、まだ課外活動に参加していない留學生たちに向けてメッセージをお願いします。

学生の身分はもちろん学業、でも学友会活動が留學生生活を有意義にします。活



動範囲が拡がり、考え方の違う人に出会って生活を充実させてくれる経験です。「あの時やっておけばよかったな」って後悔するのは、学生生活で一番もったいない！ 2年生でも3年生でも、迷っているならまず挑戦してみてください。

僕も同意見で、大学生活って授業だけだと知り合う人は意外と少ないんですよ。それに付き合いが薄くなりがちで、もったいないと思います。学友会は今までやってこなかったことをするチャンスでもあります。いろんな団体を経て美術部長になりましたが、この経験も新しいことに挑戦するチャンスになりました。そういう絶対の機会、利用して損はないですよ。

愛好会
 はあくまで自由な場です。無理に入るとはいいません。でも入ったら新しいことに挑戦できて新しい友達できて：それはきっと財産になると思います。あとは体育会や文化会、学友会本部、そして愛好会本部の活動にも目を向けてもらえると嬉しいですね。人数が不足して、1年生が2人しかいないので：よろしくお願いします(笑)。

私は一人ひとりが名刺を持っていることも学友会の魅力だと思っています。私なら「放送研究会 部長」で「古典ギター部 副部長」で「学友会本部 広報部長」。学外の人に



獨協大学学友会本部
 ホームページは
 こちらから！

第50回創造祭 百花繚乱

第50回創造祭が5月31日(水)〜6月3日(土)に開催された。今回のテーマは「多種多様な花が咲き乱れること」を意味する「百花繚乱」。文化系団体の成果発表の場として、咲き誇った花のように多彩な展示・パフォーマンスが行われた4日間となった。

書道研究会



雄飛ホールにて、開会式に引き続いて、書道パフォーマンスを行った。部員の息のあった動きは、見るものをあっと驚かせるほどの迫力があった。また、音楽と合わさった書はとても格好よく、見たものに感動を与えていた。

ABORN(K-POPコピーダンス)



小講堂にて、コピーダンスを中心に全8曲を披露した。ABORNは学年や男女の隔てがなく、それぞれのチームが日々の練習の成果を堂々と熱演した。キレのある、情熱的で可憐なダンスによって多くの観客を魅了し、まるで時間を忘れさせるほどだった。

モダンジャズ研究会



小講堂にて、モダンジャズ研究会は、音楽に対する熱意と高い技術力が結集した演奏を披露した。特に、セッション演奏とソロ演奏の相互作用が緻密に練られており、聴衆を魅了して、ジャズに関心のある人は必聴のライブであった。

Overlap(アカペラ)



小講堂にて、5人から6人ずつの少人数体制で全6曲を披露した。魅力的な歌声でメロディーを口ずさむセンターをはじめとし、巧みなボイスパーカッションなどメンバー全員で、訪れた人々の記憶に残る幻想的なハーモニーと空間を創り出していた。

写真部



学生センターにて、「夏の訪れ」をテーマにした写真部による40点の作品が展示された。テーマパーク、色とりどりの花、電車など、様々なモチーフで「夏」を感じさせる写真が並んだ。また、来場者が気に入った作品を選んで投票も行った。

インタビュー



OFFICE STOMP所属 ミュージカル俳優 高橋 莉瑚さん(19年英語学科卒)

在学中は舞踏研究会に所属し、全日本学生競技ダンス選手権大会で2連覇、台北オープン・アジア学生ラテンの部総合優勝を飾る。卒業後、ミュージカル「オン・ユア・フィート!」にラテンダンサーとして出演。それを皮切りにミュージカル「グリース」「アナスタシア」「ヘアスプレー」などに出演している。



未来への 羅金盤

vol.34

現在とこれまでのお仕事について教えてください。
 私の仕事はミュージカル俳優です。ミュージカルは歌とダンスとお芝居の三つの要素からなる総合芸術。私は事務所に所属しており、制作会社が主催している作品にオーディションを受けて出演します。そのため、稽古や本番が入っていない時期から次の機会に向けて、日々自分を高め続けるのも大切な仕事です。
 最近は舞台「千と千尋の神隠し」にも出演させていただきましたが、私の場合は海外のミュージカル作品に日本語版キャストとして出演することが多いですね。作品によっては海外の制作チームと組むこともあり、その際のコミュニケーションは基本的に英語です。通訳の方もいらっしゃいますが、できる限り自分の言葉で直接やり取りをするようにしています。

各業界でトップランナーとして活躍する先輩に、学生記者がインタビュー。今回は、大学卒業後ミュージカル俳優として数多くの作品に出演されている高橋莉瑚さんにお話を伺いました。

このお仕事をされるうえで、大切にされていることは何ですか。

舞台上での表現を魅力的に見せるには、インプットを蓄えることが大切です。ボイストレーニングやジムに通うのはもちろん、時間を見つけてミュージカルやお芝居を見に行くようにもしています。

また、海外作品に出演するときは、物語の時代背景やその国の文化を必ず事前に学ぶようにしています。役柄の考え方の根底がわかり、舞台上での立ち振る舞いや表現に深みが出るんです。ほかの国の言葉や文化を積極的に学んでいるのは、獨協大学で過ごした経験があるからこそかもしれません。

獨協大学に入ろうと思ったきっかけ、理由を教えてください。

じつは大学進学前は進路に迷っていたんです。幼いころからミュージカルが好きで、この業界に憧れを抱いていました。両親も私の想いを理解して応援してくれましたし、事務所や劇団に入るという道も考えました。

しかしその一方で「今すぐ俳優になることは果たして最善なのか」という迷いもありました。ミュージカルに関わる仕事に就きたいといっても、そこには台本の翻訳や、歌の訳詩など、クリエイター側を目指すという選択肢もある。もっと広い世界を知って幅を広げてからでも遅くはないはず。そう考えて、獨協大学に進学を決めたのです。

学生時代に力を入れていたことを教えてください。

一つ目は英語学習です。特に思い出深いのは、ゼミで戯曲を二作品、全編翻訳したこと……大苦戦しました。翻訳に必要なのは英語力だとはかり思っていました。むしろ重要なのは日本語力。同じ意味を表す言葉を使っても、言葉尻や単語選んで伝わり方が大きく変わります。的確な表現を求めて、膨大な言葉と悪戦苦闘しました。今では、翻訳家さんには頭が上がりません。本当に尊敬しています。今は、訳された台詞を実際に口にする立場なので、翻訳家さんが考え抜いた言葉に敬意を払って、演じるようにしています。

二つ目は舞踏研究会での活動です。新入生歓迎会で魅了されて入部し、ライバルへの競争心を原動力に毎日授業の合間に練習しました。当時の経験のおかげで、私は今も「昨日より今日、今日より明日の自分を高めよう」と向上心を持って過ごしています。目標に向かって自分を高め続ける習慣は、獨協大学が育ててくれた私の財産です。

メッセージ 学生の皆さんへ

- 1 学生のうちは積極的な行動を。大学には十分な設備があり切磋琢磨する仲間がいる、その環境を活用しよう。
- 2 自分を信じて努力を惜しまない。自分を信じて走り続けることが、輝かしい未来を作る!



学生記者

島田 瑠里香(済2年)
 今回高橋様のインタビューを通して、改めて大学に入る意義を感じました。すぐに社会人として働きにでることも良いかもしれませんが、大学だから経験できることや、やるべきことが増えてくると知りました。在学中にさらに自分の視野を広げていきたいと思いました。

土屋 日花莉(律2年)
 学生時代に力を入れて取り組んだことが現在も活きているというお話を伺い、学生のうちに積極的な行動をとり、様々なことに挑戦しようと思いました。また、経験を積み視野を広げて、将来の選択肢を増やそうと思いました。

編集後記

11月の「Do!獨協大学ニュース」では「創造祭」についての記事を盛り込みました! キラキラ輝く笑顔とエネルギーに活動する姿に、たくさんの元気をもらいました。取材・写真撮影にご協力いただいたみなさん、本当にありがとうございました!

取材・撮影・誌面構成: 庄司 光希(総3年)/片柳 月奈(言2年)/土屋 日花莉(律2年)

「学生による授業評価アンケート」結果報告

授業評価アンケートは、授業に対する学生のみさんの意見を伺い、今後の授業内容の改善を目的として各学期末に実施しています。アンケート結果は授業毎に集約し、授業を担当している教員や授業を開講している学部、学科にフィードバックしています。

2023年度春学期の授業評価アンケートは無事終了しました。大学全体での集計結果をご報告します。

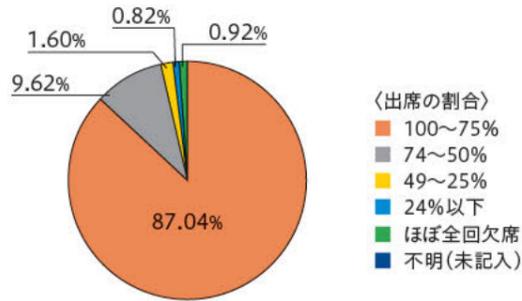
個々の授業の集計結果は、PorTaIIをご覧ください。

■ 実施状況

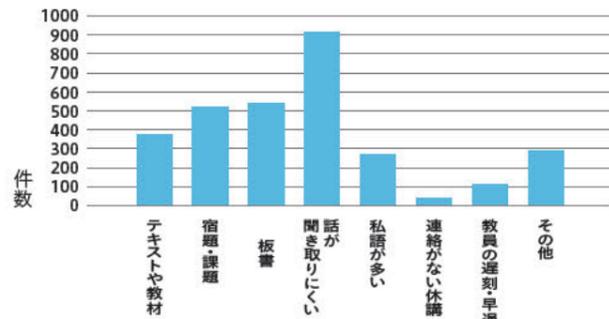
実施期間：2023年7月3日(月)～7月23日(日) PorTaIIにて実施

	対象者数	回答者数	回答率
23年度春学期	8,252	3,119	37.79%
22年度春学期	7,998	3,226	40.33%

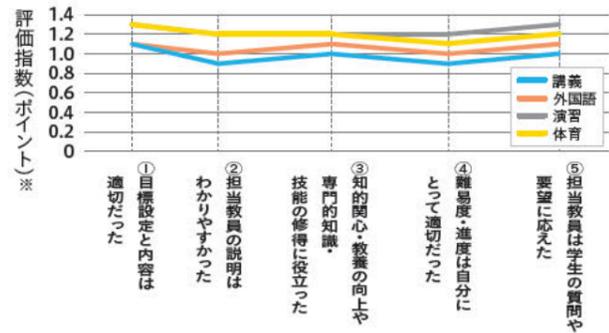
1. 出席状況(全学平均)



3. 各授業の問題点(複数選択可)



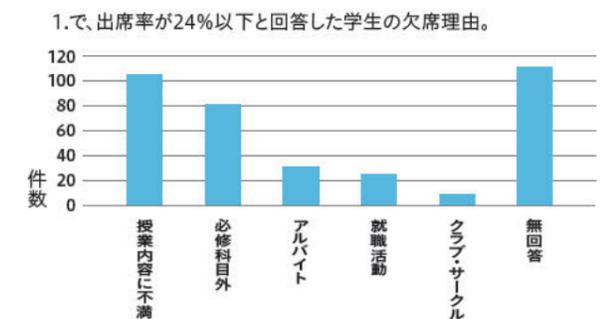
2. 授業評価(授業形態別)



※授業に関する5項目の質問の回答を「そう思う=1.5」「ややそう思う=0.5」「あまりそう思わない=-0.5」「そう思わない=-1.5」「わからない=0」として、平均値を算出し、評価指数(ポイント)としました。

選択肢	ポイント
そう思う	1.5
ややそう思う	0.5
わからない	0
あまりそう思わない	-0.5
そう思わない	-1.5

4. 低出席理由(複数選択可)



獨協大学の省エネ・省CO₂はどうなっているの?

獨協大学には理工系の学部はありませんが、省CO₂や省エネは進んでいます。本学にとっては経済面や環境面から省CO₂や省エネを推進し、同時期に天野貞祐記念館を起点とするキャンパス再編を行ったことがさらなる推進に繋がりました。理論的な学問として進めてきた省エネについて、具体的な事例を手に入れたことは本学にとって幸運でした。

2007年に竣工した天野貞祐記念館から始まり、以後、新たな建物に太陽光発電装置を設置し、現在は約363kWもの創エネルギーを実現しています。これは一般家庭の70軒分以上に相当します。その他、省エネ設備への置き換え、照明のLED化等により、500kWも契約電力を削減しています。

ソフト面の対策としては、施設事業課が中心になり、米山ゼミなどの学生や教職員が省エネコンサルタントと共に「省エネ推進会議」を実施しています。建物各所の電力とガス使用量を測定し、省エネコンサルタントによる解析結果を基に議論を繰り返しています。この結果をフィードバックすることで「省エネルギー推進に関する専門部会」を通して本学の省エネ・省CO₂へ繋がっています。

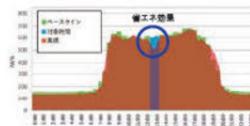
また、Earth Week Dokkyoでは、オープンな「省エネ推進会議」を開催し、学生の皆さんと共に本学の省エネ・省CO₂について議論しています。どなたでも参加できる会議を雄飛ホールで行っていますので、興味のある人は参加してみてください。さらに、Earth Weekのライトダウンの効果検証、復興事業を展開する福島県田村市への省エネ提案(たむら市政だより「ちょこっとエコライフ ～身近な省エネを実践しよう!～」など)もこの会議で議論されています。

学生教職員で考える「省エネ推進会議」、興味がある人は施設事業課にお声かけください。

省エネ・省CO₂の推進は学生および教職員ひとりひとりの意識と行動が必要です。皆様、ご協力をお願いします。



Earth Week Dokkyo期間中の公開省エネ推進会議の風景



ライトダウンの省エネ効果



経営学科3年

「ジャンル問わず30冊読書する」

現在人材系のスタートアップで人事の長期インターンに参加し、学業と両立しながら取り組んでいるが、自分の時間をあまり持てていないと感じたため、最近ハマっている読書に挑戦してみようと思った。普段は自己啓発本や洋書などを読むことが多いが、この秋は小説など色々なジャンルの本を読むことで今まで知らなかった知識を身に付けたり、人生をより楽しむヒントも見つけたと思う。また、自分は好奇心旺盛な方だと思うので、この秋を機に今以上に物事に対して貪欲になっていきたい。



英語学科3年

「エレキギターで1曲コピーする」

今年の春ごろからエレキギターを買っていたのだが、春学期は授業や課題に追われてなかなか練習することができなかった。そのため秋学期からはスケジュールを調整し、休日などを活用して積極的にギターを弾く時間を設けていきたい。ギターコードや手の動かし方をもっと上達させて、今年中に1曲は弾けるようにしたいと思う。

私たちが取材しました

齋藤 史空(英3年) 岡田 陽依(英3年) 古川 大翔(英3年)



国際環境経済学科2年

「ゼミ活動を通しての地域貢献」

私は夏休みに行われた所属ゼミでの合宿をとおして、地域の方々と触れる機会を得ることができ、地域が抱える問題や想いについて学ぶことができた。今後は地域貢献のために、インタビューの実施や活動・イベントにより積極的に参加をしていきたい。



英語学科3年

「英語力の向上」

今年の春、カナダでの短期留学を経験し、自分の英語力の低さを痛感したと同時に、英語力を向上させたいという気持ちが高まった。そのため、秋学期は通学時間などの隙間時間を有効活用したり、大学にいる留学生と積極的に交流して英語力を向上させたいと考えている。また、海外旅行に挑戦し、様々な国の人と英語を通じてコミュニケーションを取ってきたい。



交流文化学科2年

「Overlapでのサークル活動」

私はOverlapというアカベラサークルに所属しているが、日々メンバー内で積極的にコミュニケーションを取ったり、楽曲の分析をしたりと日々よいものを作り上げようと努力を続けている。現在の目標は定期的に行われる大会で、最高のパフォーマンスを披露することである。



経営学科3年

「世界中のいろいろな言語に触れる」

現在個人的にスウェーデン語を主軸に、副言語にデンマーク語やノルウェー語など北欧系の言語を学習している。言語を通して自分の世界観を広げたいという思いが強く、特に北欧の音楽やメディアに触れていきたい。今は歌詞を完全に理解することも難しいが、今後を通して世界中のいろいろな文字にもっと触れて、自分の技量を高めたい。

学生記者が行く



獨大生にこの秋「実らせたいこと」「頑張りたいこと」「成し遂げたいこと」をインタビューしました!



オープンキャンパスを開催

6月11日、8月5・6・26・27日、10月1日に、来場型のオープンキャンパスを開催。高校3年生に加え、高校1、2年生やご父母など、6日間で計10,954名の来場があった。

模擬授業やキャンパスツアーのほか、在学生トークライブなどの企画に、多くの高校生が参加した。当日の運営にあたった学生スタッフの笹子由貴恵さん(済3年)は「受験生や保護者の方々が、模擬授業やキャンパスに感動され、笑顔で帰られる姿がとても印象的でした」と語ってくれた。



高校生の相談に応じる学生スタッフ

2023年度9月卒業式を举行

9月20日、2023年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で举行し、65名の卒業生が本学を巣立った。

山路朝彦学長は式辞で「本日卒業される皆さん方には、直面する幾多の課題に対応できる『感性と技能』、人の悲しみに共感できる『想像力』に一層の磨きをかけ、『自信』をもって、仕事に生活に臨み、揺るぎない人生を築いていただきたいと思っています。どのような境遇にあっても決して下を向くことなく、夢や希望を持ち続け、いざれ訪れる『大なる幸福』を確実に掴み取ってください」と述べた。

また、卒業生を代表して佐々木亜有香さん(法4年)は「私たちは在学期間のほとんどをコロナ禍の中で過ごし、多くの制約のもと、嵐のような日々に対応してきました。これら獨協大学でのすべての経験が、私たちのこれから先の人生の糧となるでしょう」と謝辞を述べた。

式典終了後には、学生食堂において4年ぶりとなる祝賀会が催され、参加した卒業生やご父母と教職員が笑顔で歓談する姿が見受けられた。

■学士 独3名、英13名、仏7名、交6名、言11名、済8名、営9名、環2名、律2名、関2名、総2名 計65名



2023年度
防災基本訓練実施

10月18日、2023年度防災基本訓練を実施した。授業中に「首都直下地震」が発生し、震度6強の地震に見舞われたという想定で、学生・教職員がシェイクアウト訓練、避難者安否情報集約訓練および避難誘導訓練を行った。

避難誘導訓練では、障がい者支援の取り組みとしてイーバックチェア利用想定訓練も実施した。また、希望者参加訓練では、草加消防署西分署や草加市危機管理課の協力も得て消火器使用訓練、AED訓練、避難所設営訓練および備蓄品の配布訓練を行い、防災を身近に考える一日となった。



獨協大学英語教育研究会
(DUETA)講演会を
ハイブリッド形式にて開催

7月29日、獨協大学英語教育研究会(DUETA)主催の第27回講演会(『5ラウンドの真実』)が対面とオンライン併用のハイブリッド形式にて開催された。講師は、岡村賢一氏(埼玉県熊谷市立別府中学校校長、本学卒業生)と落合千裕氏(埼玉県熊谷市立玉井中学校教諭)が務め、およそ85名が参加した。参加者からは「ラウンドシステムの実践の様子を教えてください勉強になった」「新たな気づきが多くあり、普段の自分の授業を見直すきっかけになった」といった声が寄せられた。



本学学生が
英語検定試験学習会で
学習指導

2017年度草加市と本学は教育支援連携について協定を結び、学校教育充実と本学学生の実践的な教育充実のために様々な事業を行っている。その一環として、9月30日、本学学生15名が、草加市内の中学3年生を対象とした英語検定試験直前学習会(主催・草加市教育委員会)の講師を務めた。

当日は、草加市内の中学校から3年生約160名が参加し、受験する級別に分かれて学習した。講師を務めたのは、主に英語の教員免許状取得を目指す学生で、中学生に対してレベルに合った学習指導を行った。



結果報告

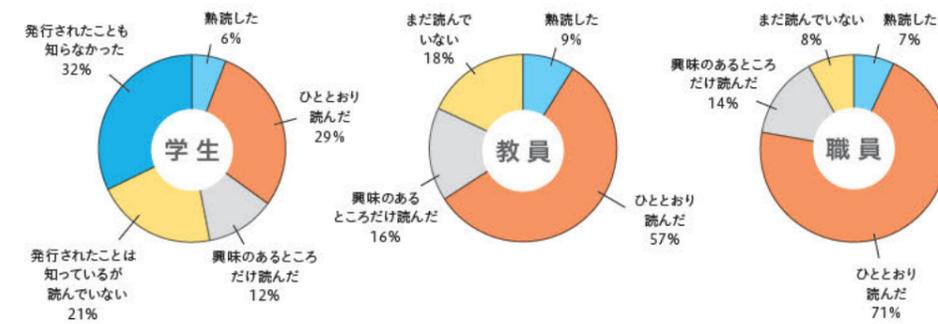
学生対象「獨協大学におけるジェンダーとセクシュアリティの現状に関するアンケート調査」
教職員対象「セクシュアル・マイノリティ学生への対応状況把握のためのアンケート調査」

獨協大学ダイバーシティ推進連絡会*は昨年7月、学生を対象に「LGBTQ学生を取り巻く現状とニーズ把握のためのアンケート調査」を実施しました。それから1年後の今回の調査では、学生に対しては「本学がどのくらい学生にとって過ごしやすい環境に変わったか(変わっていない部分はどこか)」を、教職員には「学生対応で配慮していること、とまどっていること」等を聞きました。アンケート結果の概要を、2回に分けて報告します(次回は2024年1月号に掲載予定)。

*ダイバーシティ推進連絡会
副学長を部会長、学生部長を副部会長とし、教務課、学生課、保健センター、入試課、キャリアセンターの職員で構成。入学試験受験から卒業、キャリア支援まで、連携して学生サポートすることを目的とする。

回答者数: 学生269人(全学生の3.2%)、教員161人(全教員の26.0%)、職員118人(全職員の41.7%)

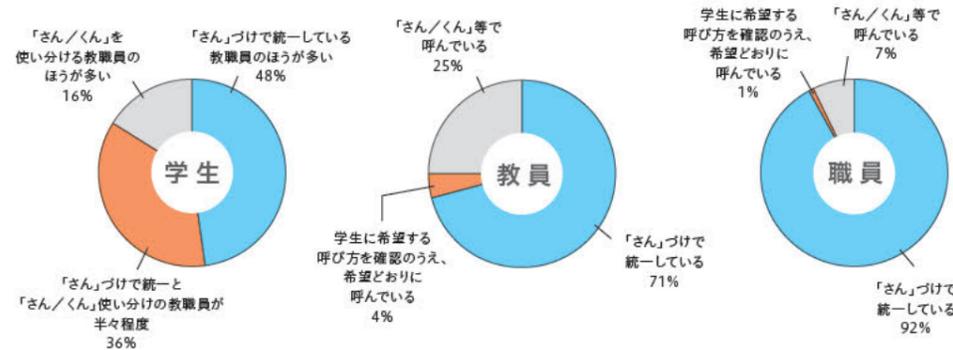
■ 昨年12月発行の「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer. 1」は読みましたか? (共通の設問)



教員・職員は「読んだことがある」人がいずれも8割、9割を超えています。学生は「読んだことがない」「発行されたことも知らなかった」の合計が半数を超えています。

2023年度新入生には入学時に全員配付しましたが、2年生以上には周知が不十分だったのかもしれない。2024年度以降も、新入生には全員配付し、ガイダンスを実施する予定です。

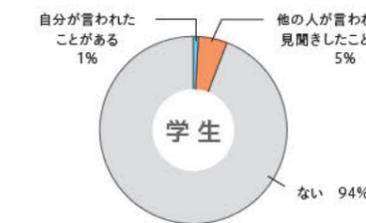
■ 獨協大学では、学生の呼び方は「〇〇さん」で統一するか、学生の希望に沿った呼び方をするよう推奨していますが、現状はどうですか? (共通の設問)



教員の4分の3、職員の9割は「さん」づけで統一または学生が希望する呼び方をしていると回答していますが、学生の受け止め方はかなり異なるようです。

教員のアンケート回答率は26.0%だったことから、未回答の教員の中に「さん/くん」を使い分けている方が多いのかもしれない。

■ 4月以降にジェンダーやセクシュアリティについて不快な発言を受けた経験は? (学生のみ回答)



〈他の学生からの発言〉

「料理ができると女らしい」「女なら結婚して子どもを産むから5年くらいしか働かないよ」など、女性に対するジェンダ 差別発言への怒りが多く寄せられました。

〈教職員からの発言〉

「女性/男性は～しなければならぬ」「男の子なのに日傘をさすのはおかしい」などのステレオタイプの発言、相手が異性愛者である前提での「ガ ルフレンド/ポ イフレンドはいる?」といった質問への不快を示すコメントがありました。

「ジェンダーとセクシュアリティについてのハンドブックVer.1」をまだ読んでいない方は、大学HPからダウンロードしてください。学生課(学生センター1階)前でも配布しています。



創立60周年 記念事業がスタート 活動コンセプトは“つなぐ”

本学は2024年に創立60周年を迎えます。これを記念してシンボルマークを制定し、10月1日より創立60周年記念事業がスタートしました。

活動コンセプトは“つなぐ”です。本学はこれまで、学内外の様々なステークホルダーに支えられながら発展を遂げてきました。本事業は、企画やイベントを通じて学生、卒業生、父母、教職員の愛校心を醸成すると共に、地域社会と積極的につながることで、地域に必要とされる大学として確固たる地位の確立を目指します。

また、60周年を人の選歴になぞらえ、これまで建学の理念の下で積み重ねてきた伝統を重んじながら、生まれ変わりを意識した新たなブランディングを展開します。

DOKKYO UNIVERSITY

60th Anniversary since 1964



@DOKKYO60TH



専用のInstagramとXを開設しました。フォローをお願いします。

ウーロンゴン大学との 交流会をオンラインで 実施します

11月15日(水) 17:25~18:55に、中央棟10階ホールで「ウーロンゴン大学生との交流会」を実施する。

ウーロンゴン大学(オーストラリア)と獨協大学をZoomで繋ぎ、英語で大学紹介や学生生活について相互に紹介しあうことで国際交流を行う予定です。

本企画は2022年度にウーロンゴン大学への留学を経験した学生が、グローバルフロンティアアンバサダー(学生スタッフ)の活動の一環として企画し、実現した。

予約は予約システムDOORS>ICZ(教育研究支援課)より受け付けている。



60周年つなぐプロジェクト ”READ THE CULTURE”を 開催します

12月21日(木) 15:30~17:10に、本学ドイツ語学科卒業生のサッチャ氏がナビゲーターを務めるJ-WAVE音楽・情報ワイドプログラム「STEP ONE」とのコラボイベントとして、出張講義”READ THE CULTURE”を実施する。番組ナビゲーターのサッチャ氏、ノイハウス萌菜氏をお招きし、語学を学ぶ意義や仕事と出会ったきっかけ、海外ニュースの読み解き方などを講義頂く予定です。予約は予約システムDOORS>総合企画課(60周年イベント)から受け付けます。

日時: 2023年12月21日(木) 15:30~17:10
会場: W-101 定員: 200名(予定)



サッチャ氏

ノイハウス萌菜氏

就職活動 本格スタート講座を開催

10月2日、キャリアセンター主催で就職活動本格スタート講座を開催し、約350名が参加した。ワークや4年生内定者からの応援メッセージを通じて、これから本格的に始まる就職活動の現状やスケジュールについて理解する内容となっており、学生たちは、目標のために明日から何に取り組むかを「私の決意」として書き出して決意表明をしていた。

キャリアセンターでは内定者や卒業生と対面で質問ができるイベントを開催するなど、これまで以上に充実した支援を行っており、今後のイベント情報はPorta II、キャリアセンター公式LINEにて発信予定だ。



大学院進学ガイダンス (研究科別説明会) 参加者募集

- 法学研究科
11月9日(木) 12:50~
 - 外国語学研究科
11月8日(水) 12:50~
 - 経済学研究科
11月7日(火) 12:50~
- ※大学ホームページ「大学院進学ガイダンス開催」案内ページよりお申込みください(要事前予約)。



2024年度入学試験日程

入試種別		
Ⅱ期入試/特別入試		
出願期間	試験日	合格発表
1月9日(火)~1月17日(水)	2月11日(日・祝)	2月15日(木)

問合せ先: 大学院事務室事務課
TEL: 048-946-1666
E-mail: daigakuin@stf.dokkyo.ac.jp

第25回全国高校生ドイツ語 スピーチコンテストを開催

10月1日、外国語学部主催「第25回全国高校生ドイツ語スピーチコンテスト」を獨協大学コミュニティスクエアにて開催した。

当日は、応募総数182名のうち、予選を勝ち抜いた19名(第1部朗読部門9名、第2部プレゼンテーション部門5名、第3部フリースピーチ部門5名)と、パフォーマンス動画部門4組が本選の舞台に臨んだ。

審査の結果、第1位の最優秀賞には、〈第1部〉中川結友さん(東京都・都立北園高等学校)が、〈第2部〉藤澤昊正さん(東京都・私立武蔵高等学校)が、〈第3部〉今野歩さん(東京都・私立国際基督教大学高等学校)が、パフォーマンス動画部門からは東京都・都立国際高等学校が選ばれた。



復興知事業 「子ども未来講座」 開催

7月2日、福島県田村市において「子ども未来講座」(主催: 獨協大学・田村市教育委員会)が開講した。この講座は、(公財)福島イノベーション・コースト構想推進機構による「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」の一環として実施するもの。田村市内の小学5・6年生13人が受講。全6回の講座で、羽山恵英語学科准教授の指導のもと、本学学生・留学生のサポートを受け、英語で田村市を紹介するプレゼンテーションを行う。8月にはフィールドワークをし、9月からはタブレットを活用した資料作成に励んでおり、12月の最終回では成果を発表する予定である。



観光学会で 交流文化学科学生が 最優秀賞を受賞

観光学会の第12回大会(2023年7月8日開催、立教大学新座キャンパス)にて、本学交流文化学科の3年生、毛塚依玲さん、中村遥さん、新島琴乃さん、大口有香さんの4名が「学部学生ポスターセッション」で発表した「ピコツーリズム実践—冷たい世界を熱く観る観光の研究と実践」が、最優秀賞(1位)に選出された。

4名は今回の発表の成果を、所属する山口ゼミのメンバーと共有して、9月からの秋学期のゼミでの研究活動に活かすことで、さらなる研究の深化を目指していく予定だ。



2023年度 「子ども大学そうか」 開催

7月22日、コミュニティスクエアで「子ども大学そうか」の入学式と授業が行われた。

抽選で選ばれた草加市内の小学5,6年生(定員46名)が5回の授業を体験する。入学式で山路朝彦学長は、「子ども大学そうかは、皆さんを新たな世界に案内してくれます。元気に楽しく、先生と一緒に新しい発見をしていくことを願っています」と挨拶した。講義は高安健一教授による「SDGsを達成するために草加市の小学生ができることを考えよう」が行われた。グループワークを通して多数のアイデアが披露され、自分たちにできることを真剣に考えている様子が伺えた。



交流文化学科 北野収教授、 卒業生田村優さん・ 宮下智衣さん共著書が 「日本NPO学会賞」を受賞

北野収交流文化学科教授・西川芳昭龍谷大学教授編『人新世の開発原論・農学原論』(農林統計出版、2022年)が日本NPO学会賞・選考委員会特別賞を受賞し、去る6月10日の同学会第25回研究大会にて、表彰式が行われた。

同書は、北野教授と西川教授が「人新世(ひとしんせい)」とよばれる現代における人類の在り方を考えた、究極の「持続可能な開発論」といえる。

教え子や研究仲間たちとの協力から生まれた一冊でもあり、本学交流文化学科卒業生で、アフリカ開発の専門家の田村優さんと宮下智衣さんはそれぞれモザンビーク農村の母系社会、タンザニアの有機農業と貧困削減に関する章を執筆した。



オープンカレッジ特別講座 「法と社会を考える」 —少年法の現在—

7月29日、東棟1階E-102教室でオープンカレッジ特別講座が開催された。主に社会人を対象とした生涯学習講座「オープンカレッジ」の無料講演会で、事前の申し込みにより92名が来場し、併用したオンライン配信では51名が受講した。

講師は安部哲夫名誉教授。講座では、大正、昭和、平成の少年法の特徴を時代背景や少年法改正の動きを取り上げながら説明され、改正されてきた少年法の問題点について考察した。

受講者のアンケートでは、講座内容に満足したという感想が多数寄せられ、改めて少年法について考え直す機会となった様子が伺えた。



本箱

本学の先生方が執筆された新刊情報

(価格は税別)

小宮 秀隆(言語文化学科准教授)分担執筆
『多元的中華世界の形成
—東アジアの「古代末期」—』
臨川書店 2023年2月 5300円

宗教・社会・文化が大きく揺れ動いた東アジアの3〜8世紀を「漢文化の継承と変容の時代」としてとらえ、周辺世界とのかわりから歴史の展開を再定義する一冊。

金 秀晶(言語文化学科教授)共著
『韓国語コミュニケーションレシピ(初級)』
博英社 2023年3月 2300円

初めて韓国語を学ぶ方に向けた入門教材で、発音、語彙、文法の基本、韓国文化まで、幅広く学べます。場面を想定した練習問題やよく使う表現なども収録した実践的な内容です。

金 秀晶(言語文化学科教授)共著
『もうできないなんて言わせない韓国語
—初級から中級編—』
白帝社 2023年4月 2600円

韓国語中級を目標とする学習者のための教材として、求められる語彙や詳細な文法解説はもちろん、その用法を豊富な例文と共に提示。様々な練習問題や課題も設けています。

石井 保雄(法医学科教授)共編著
『トピック労働法(第2版)』
信山社 2023年4月 3200円

若者目線で働くことの意味を考えるトピック、AI(人工知能)や少子化といった問題の影響も視野に、労働法の「今」と「これから」を学ぶ、労働法テキストの最新第2版。

山口 誠(交流文化学科教授)分担執筆
『吉見俊哉論
社会学とメディア論の可能性』
人文書院 2023年5月 4500円

数々の分野で新たなテーマと方法論を切り開き、いまなお前進を続ける吉見俊哉。その膨大で多様な研究の核心を読み解き、引き継ぎ、発展させるための研究書です。

柴田 守(法医学科教授)共編著・安部 哲夫(名誉教授)共著
『女性犯罪研究の新たな展開 岩井宜子先生
傘寿・安部哲夫先生古稀記念論文集』
尚学社 2023年5月 7000円

著名な2名の碩学の傘寿と古稀を祝う、女性犯罪研究のマイルストーンとなる論文集。女性による犯罪や女性犯罪者の処遇などをテーマにした論文集と共に今後を語り合う座談会を収録しています。

木藤 茂(総合政策学科教授)分担執筆
『ミクロ憲法学の可能性
—「法律」の解釈に飛び込む憲法学』
日本評論社 2023年5月 6500円

雑誌『法律時報』の連載企画の書籍化。憲法学の基調報告、他の法学分野からのコメント、憲法学からの再応答、という形で“対話”が行われます。木藤教授は行政法学の見地から国の行政組織についてコメントしています。

安部 哲夫(名誉教授)共編著
『ビギナーズ刑事政策(第3版補訂版)』
成文堂 2023年5月 3000円

初学者向け刑事政策の基本書。令和4年の刑法の一部改正(懲役刑・禁固刑の廃止と、新たな拘禁刑の創設)に合わせた修正と共に、個別犯罪の現況や数値を最新化した補訂版です。

安部 哲夫(名誉教授)分担執筆
『ビギナーズ少年法(第3版補訂第2版)』
成文堂 2023年5月 2900円

めまぐるしく変化する少年司法の全体像を捉え、海外との比較や少年非行の分析も試みる一冊。「特定少年」を設けた令和3年の法改正と、令和4年の刑法の一部改正に対応しています。

白川 貴子(交流文化学科非常勤講師)訳
(ジェロルド・J. クライスマン、ハル・ストラウス著)
『境界性パーソナリティ障害の世界
I HATE YOU DON'T LEAVE ME』
翔泳社 2023年6月 2400円

研究が盛んなアメリカの最新治療と豊富な臨床例を専門医が紹介・解説する、「境界性パーソナリティ障害」研究のバイブルともいえる『境界性人格障害のすべて』の加筆修正版です。

高安 健一(経済学部教授)著
『半径3キロのPBL 埼玉県草加市で
挑んだSDGs地域連携の記録』
幻冬舎 2023年6月 900円

教育界で流行のPBL(プロジェクト型課題解決学習)。それを通じて学生は何を学び、いかに成長するのか? 普通の大学生と普通の教員が挑戦したゼミ型地域密着PBLの記録です。

森永 卓郎(経済学科教授)著
『ザイム真理教
—それは信者8000万人の巨大カルト』
三五館シンシャ 2023年5月 1400円

最近、ネットの世界で財務省を揶揄して使われる「ザイム真理教」という言葉……我が国の財務省の「教義」が国民生活に与える影響や問題点を、やさしく、やわらかく、面白く伝える一冊。

古田 善文(名誉教授)監修
『一冊でわかるオーストリア史』
河出書房新社 2023年6月 1700円

オーストリアとはどういう国か? いかにして永世中立国となったのか? その歴史を図やイラスト、コラム「そのころ、日本では?」などとともに、わかりやすく丁寧に描かれます。

黒川 文子(経営学科教授)監修
『イラストしごと事典2
自動車がいかに届くまで』
文研出版 2023年7月 3000円

子どもたちの身近にある「もの」が生み出される背景を、そこに関わる人々に焦点をあて解説するシリーズの第2巻、テーマは「自動車」です。子供たちが知らない仕事の裏側を紹介します。

犬井 正(名誉教授)著
『土と肥やしと微生物』
農文協 2023年9月 2200円

北武蔵野で360年以上にわたり受け継がれる「武蔵野の落ち葉堆肥農法」。FAOの世界農業遺産にも認定されたこの農法について、土壌生態学や欧州との比較など、様々な側面から探求します。

読書人カレッジ2023 「本、国境を超えるために」 を開催します

日時:2023年11月15日(水)15:30~17:00
講師:小林 康夫 氏
(東京大学名誉教授/東大EMP講師)
場所:W-104教室
対象:本学学生・教職員のみ(事前申込不要)

■講師からのメッセージ
人間にとって20歳前後の時期は、決定的に重要です。そのときに、その人にとっての世界の全体像が見えてくるからです。ちがった国、ちがった文化、ちがった世界がどのように存在しているのか、それを知ることで、自分自身を大きく育てていくことができる。本はそのためにこそあります。本を読むとは、みずから論理を組み立て、ちがった世界を想像すること。その力こそ、21世紀のすべての人類にとって、「未来」を開く「鍵」となるのです。



「ベル・エポック—美しき時代展 パリに集った芸術家たち」に 本学図書館の所蔵資料を展覧

2024年に始まる巡回展「ベル・エポック—美しき時代展 パリに集った芸術家たち」に、本学図書館所蔵の鈴木信太郎文庫から7タイトル9点を提供予定。これに先がけ、10月12日にパナソニック汐留美術館にて都内5美術館(永青文庫、静嘉堂文庫美術館、泉屋博古館東京、東京ステーションギャラリー、パナソニック汐留美術館)の合同記者発表会が行われ、同展について紹介があった。同展覧会はパナソニック汐留美術館にて、2024年10月5日~12月15日開催予定のほか、日本各地を巡回予定。

- 獨協大学図書館からの提供資料は
- ・『大鴉』レプリカ
 - ・『ステファヌ・マラルメ詩集』
 - ・『半獣神の午後』初版レプリカ/2版・3版オリジナル
 - ・『呪われた詩人たち』
 - ・『オード』
 - ・『海辺の墓地』
 - ・『B手帖』
- マラルメ『半獣神の午後』よりマネ画<半獣神>1876年初版レプリカ獨協大学図書館(初版原本 レプリカ所蔵)

第7回 図書館講演会を開催

7月12日、第7回図書館講演会を開催した。本学学生やオープンカレッジ受講生ら約40名が参加。本学英語学科の前沢浩子教授が“「作者」の肖像画 一獨協大学所蔵『ガリバー旅行記』初版の謎をさぐる”というテーマで講演した。前沢教授は、「ガリバー」という架空の人物を繰り返し真実であるように演出した仕掛けを当時の手紙や肖像画を用いながら解説し、作品を通じて考えさせられる架空と事実の間にある謎の面白さを紹介した。講演後、参加者は貴重書を鑑賞した。



ぶらりらいぶらり vol.108 MyLibraryを使って 図書館をさらに活用しよう!



図書館には「MyLibrary」という個人専用ページがあるのをご存じですか?学外からも利用できる様々な機能があり、使い方をマスターすることで、図書館をさらに有効活用できること間違いなし!今回は「MyLibrary」の主な機能をピックアップして紹介します。

★ログイン方法
図書館ホームページ、もしくは蔵書検索(OPAC)からログインします。学生のみなさんは、利用者ID(g+学籍番号下7桁の数字)とパスワード(学内教育研究系アカウントと同様)を入力してください。

★貸出期間の延長
「返却期限が迫っているけど、もう少し借りていたい…」そんな時でも、1つの資料につき1回、返却期限内であれば貸出期間を延長することができます。ただし、他の利用者から予約が入っている、または延滞資料がある場合は延長できないので、注意してくださいね。

★オンラインレファレンスの依頼
レファレンスサービスは、館内のレファレンスカウンターだけでなく、オンラインでも相談を申し込みます。対応は翌平日以降となり、回答は調査等のため受付後1週間程度を要する場合がありますので、時間に余裕をもって依頼してくださいね。

★資料の出庫請求・予約
所在が「自動書庫」となっている資料を利用するには、「オンライン出庫請求」が必要です。OPACの図書情報詳細ページにあるカレンダーのアイコンをクリックし、資料の出庫請求を行いましょう。
「利用したい資料が貸出中だった…」という場合も、同様にこのアイコンから予約することができます。

★貸出・予約状況の確認
貸出履歴や予約資料の状況、返却期限の確認ができます。返却期限を忘れてしまった場合も安心です。

媒体	請求番号	資料ID	巻	所在	状態
電子	334.434-Ko73d	398598069		図書館・自動書庫	貸出中

他にも便利な機能が盛りだくさん!ぜひ「MyLibrary」を活用しよう!

Cover Story

国際教養学部言語文化学科3年

『Do! 獨協大学ニュース』11月号の表紙に登場してくれたのは、言語文化学科の学生スタッフや入試課の学生スタッフを務める **ゆーべい** さん。昨年は言語文化学科の学生スタッフのリーダーを務め、オープンキャンパスなどの際に学生スタッフをまとめました。

今年は高校生などに大学の魅力をどうやったら上手く伝えられるかを後輩スタッフ達と考え、魅力的に伝わる企画を考えながら活動しています。

残りの大学生活について、「獨協大学でしかできない経験をし、それを受験生にも獨協大学生にも私の口から伝えていきたいです」と語ってくれました。



Photo by Satoshi Inokuchi

第59回雄飛祭 11月4日(土)・5日(日)

■テーマ

「With All My Heart～心を込めて～」

■イベント

《両日》

開祭式 閉祭式 in2023 学生団体による発表、模擬店 レモネードスタンド ホラーハウス フリマ セルフ写真館

脱出ゲーム 縁日 絵馬

そうか革職人会による出店

《4日》 よしもとお笑いライブ

《5日》 DUコンテスト

● X・Instagram @yuhifes



ゆーべいくん

第34回獨協インターナショナル・フォーラム カーボンニュートラルと住宅、建築物、都市

日時：12月8日(金)17:30～19:30

12月9日(土)13:30～17:00

申込方法：QRコードより要事前予約 ※外部サイトに移行
[申込締切12月4日(月)]

方法：オンライン(Zoom)

使用言語：日本語、英語(同時通訳)

問い合わせ：国際交流センター(チラシ配布予定)

インターナショナル・フォーラムでは、住宅、建築及び都市の分野におけるカーボンニュートラルをめぐる国内外の知見を交換し、関連する政策推進や国際協力のあり方について考えます。8日(金)に「カーボンニュートラルと住宅・建築物」、9日(土)に「カーボンニュートラルと資金調達」、「カーボンニュートラルと都市」と、3セッションで進行します。コーディネーターは、倉橋透教授(経済学部経済学科)



読者アンケートにご協力ください

獨協大学ニュースでは、学生や保証人の方々が必要な情報、読みたいコンテンツを発信していきたいと考えています。今後の企画や掲載内容の参考にさせていただきますので、ぜひ読者アンケートにご協力ください。



編集	総合企画部(中央棟2階) TEL048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp			
学生記者	秋元 壮馬(営3年)	跡部 雄太郎(総4年)	池下 奈穂ヴェレーナ(独4年)	大久保 賢斗(営2年)
[五十音順]	岡田 陽依(英3年)	尾木 草輔(律4年)	片柳 月奈(言2年)	金子 愛美(英2年)
	金田 夏実(律2年)	狩野 有輔(英3年)	黒木 健登(律2年)	斉藤 駿斗(律3年)
	齋藤 史空(英3年)	佐藤 有恭(律4年)	佐藤 雪絵(仏2年)	柴田 爽世(英2年)
	島田 瑠里香(済2年)	庄司 光希(総3年)	蘇 キンギョク(英2年)	高橋 来未(関1年)
	田中 風羽(英2年)	土田 優衣(営2年)	土屋 日花莉(律2年)	原友里恵(英3年)
	藤崎 ゆな(営3年)	古川 大翔(英3年)	古谷 一真(交3年)	星野 空亦音(言1年)
	柳澤 真理子(営2年)	吉見 麻菜(済4年)	渡邊 帆風(営2年)	

略称表記(学科) 独…ドイツ語 英…英語 仏…フランス語 交…交流文化 言…言語文化 済…経済
 営…経営 環…国際環境経済 律…法律 関…国際関係法 総…総合政策



<https://www.dokkyo.ac.jp/>

今回は1月号(1月9日発行予定)です

Do!

獨協大学ニュース

2023 AUTUMN
11月号
VOL.482

©獨協大学2023 / 獨協大学 〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1 / 年4回発行